

1860  
1870

## 卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

田村裕教授、金子伸二教授、高橋世織講師

## 授業の概要と目標

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるということである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場だからである。

とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

## 課題の概要

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

\*課題については学習指導書『卒業制作 平成29年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は5月6日必着。

## [面接授業]

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

## 成績評価の方法

論文と提出後の講評との総合評価。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.049の特例を除く）。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 芸術文化学科各コース4年次必修科目。

## 教材等

学習指導書：『卒業制作 平成29年度（芸術文化学科）』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）